

J-STAGE NEWS

J-STAGE ニュース

No. 38

ISSN 1346-1990

2016年3月1日発行

国立研究開発法人
科学技術振興機構

電子ジャーナルの最新情報をおとどけるJ-STAGE機関紙

今号のおもな記事:

- J-STAGE の掲載コンテンツがさらに充実します!
- 簡単な操作で記事登載を可能に～Web 登載機能リリース～
- J-STAGE デザインの一新 ～評価版の取り組みについて～
- シリーズ学会訪問【日本循環器学会様】
- 2015年度 J-STAGE 機能拡張について ほか

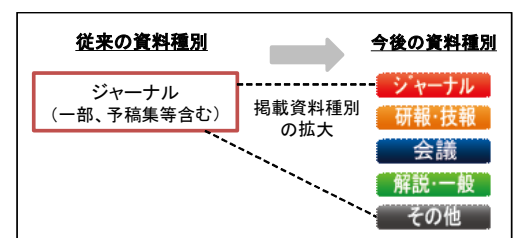


J-STAGEの掲載コンテンツがさらに充実します!

J-STAGE は 2015 年 11 月末より掲載コンテンツに関するサービス方針の転換を行い、査読付きの論文誌以外の資料種別も掲載対象となりました。これまで J-STAGE では、1999 年のサービス開始以来、査読付きの論文誌を中心に登載を行ってきました。そのため、科学技術刊行物であっても、査読記事が含まれていないものや、大学の紀要など限られた人しか投稿ができないものは、J-STAGE 掲載の対象となりませんでした。

新たなサービス方針ではこの要件を緩和し、査読付きの論文誌以外にも、企業が刊行する「技報」、研究開発成果の発表概要をまとめた「会議論文・要旨集」、知識や技術・製品紹介などの記事を掲載した「解説誌」、科学技術理解増進のための啓蒙的記事を掲載した「一般情報誌」等も掲載の対象とし、J-STAGE のコンテンツが大幅に拡大されました。今回のサービスの拡充により、J-STAGE を利用して科学技術刊行物を幅広く発信できる機会が大きく増加します。これにより、閲覧者の皆様より寄せられてきた「より多くの記事を掲載して欲しい」「分野を幅広く掲載して欲しい」「掲載誌の種類を増やして欲しい」などのコンテンツの充実に対するご期待にこたえてゆきます。

さらに、国立情報学研究所電子図書館事業(NII-ELS)のサービス終了に伴い、J-STAGE では NII-ELS 掲載誌のプラットフォーム移行を受け入れます。JST は NII と連携し、移行をスムーズに行うための技術支援を行ってゆきます。このような取り組みを通じて、J-STAGE のコンテンツがさらに充実し、閲覧者の利用機会がますます増えていくサービスへと発展させて参ります。引き続きご支援のほどよろしくお願い致します。



J-STAGE 掲載資料種別の拡大

簡単な操作で記事登載を可能に ～Web登載機能リリース～

J-STAGE では、各発行機関が J-STAGE の掲載機能を用いて記事の登載作業を行っています。この度 JST は、従来の XML 登載機能に加えて、より簡単な操作で J-STAGE への記事登載を行うことのできる「Web 登載機能」を新たに開発し、2015年11月29日にリリースしました。従来の XML 登載機能では、それぞれの記事について、記事の全文 PDF ファイルに加えて書誌事項を記載した XML ファイルを作成してアップロードする必要がありました。一方 Web 登載機能では、記事をアップロードする際に XML ファイルを必要とせず、Web 画面から直接書誌事項を入力します。この機能により、記事数の少ない刊行物の登載も簡単に行えるようになり、J-STAGE の利用が開始しやすくなりました。

● J-STAGE Web登載サービス

- いつも使うサービスに設定する

Web画面から書誌事項を入力し登録するサービスです。登録は記事ずつですが、XMLファイルを使わず簡単に記事の登録を行うことができます。

J-STAGE Web登載サービスを利用する >

編集登載サービス選択画面



J-STAGE デザインの一新 ～評価版の取り組みについて～

J-STAGE は、2012 年に J-STAGE3 へバージョンアップを行い、その後も随時システム改修を行ってきました。しかしながら、皆さまより「他のサイトに比べ直感的に操作しにくい」、「表示の英語が分かりづらい」といった画面インターフェースに関するご意見も多くいただいております。そこで更なるサービス改善へ向け、見やすく、使いやすいサービスを目指し、グローバルなジャーナルプラットフォームデザイン、全文 HTML ページの操作性向上、モバイル端末表示などに対応した「J-STAGE 評価版」の開発を進めています。

詳細はこちら: https://www.jstage.ist.go.jp/pub/html/AY04S610_ja.html

評価版では英文誌 3 誌*を掲載誌とし、現在公開している J-STAGE と並行して同じ論文を公開します。評価版リリース後は、皆さまからいただいたご意見をもとに改善を検討し、今後の J-STAGE へ反映させたいと考えております。

※日本薬学会様:「Chemical and Pharmaceutical Bulletin」、「Biological and Pharmaceutical Bulletin」

日本機械学会様:「Mechanical Engineering Letters」

今回は画面インターフェースの改善を目的としており、システム機能については現在公開している J-STAGE をベースとしています。2016 年度初めの公開を目指して取り組んでおります。

評価版の詳細・リリース時期については J-STAGE のお知らせや Twitter で今後も随時発信していきます。

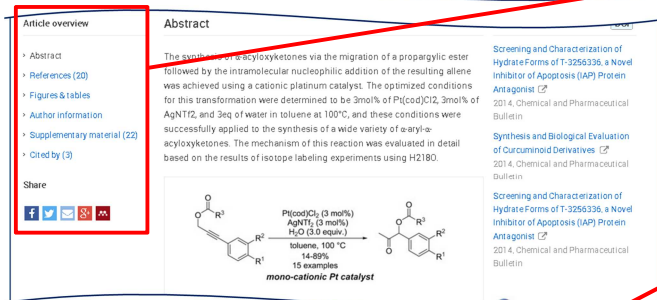
評価版の構築では、右記の基本方針をもとにデザイン制作を行い、トップページ、資料ページ、書誌ページ、全文 HTML ページ、検索ページ等のデザインを一新しています。

評価版の開発基本方針

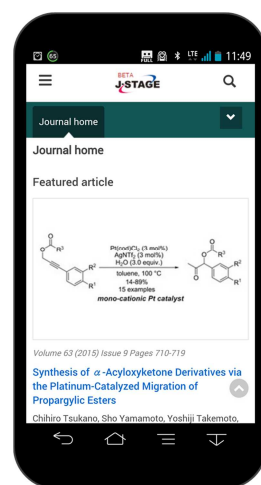
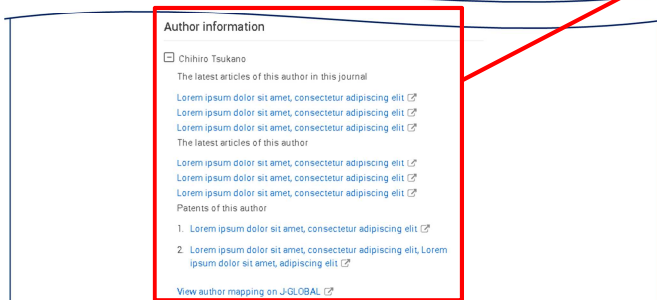
1. グローバルなジャーナルプラットフォームデザイン	<ul style="list-style-type: none"> 各国特有の文化にとらわれない使いやすいサイトを目指す 直感的な操作が可能なデザインを目指す
2. 閲覧者の目的を達成できるデザイン	<ul style="list-style-type: none"> 閲覧者が迷わず資料にたどり着け、必要な操作を行うことができる ジャーナル管理者が見せたい情報を効果的に宣伝できるデザインを目指す
3. 記事の読みやすさを重視したマルチデバイス対応	<ul style="list-style-type: none"> スマートフォン等でも記事を読みやすく、ユーザビリティの高いデザインを目指す
4. 閲覧者を引きとめる要素	<ul style="list-style-type: none"> 閲覧者が回遊しやすく、再訪したくなるサイトを目指す
5. ソーシャルメディアとの連携	<ul style="list-style-type: none"> 書誌リンクの拡散を図るため、ソーシャルメディアを活用できるサイトを目指す



左メニューはスクロール追従型を採用し、記事のどこからでも抄録、引用文献情報、著者情報等へ遷移できます。



J-GLOBAL*から著者情報を取得し、その著者が執筆した他論文情報や特許情報が表示されます。
※研究者、文献、特許、研究機関、研究課題等が集約された、JST が提供する総合的学術情報データベース



スマートフォンの表示イメージ

書誌ページの表示イメージ

[注] 画面は表示例です。また開発中のイメージのため、変更する場合があります。



【シリーズ学会訪問】 ～J-STAGE 利用学協会の声～

[日本循環器学会様]

J-STAGE でインパクトファクターTOP の日本循環器学会誌の下川編集委員長を訪問し、学会における国際発信力強化への取り組みとJST への期待についてお聞きしました。先生は、東北大学循環器内科学教授で臨床研究推進センター長でもあり、また文科省の科学技術学術政策研究所専門調査員やJST の研究成果最適展開支援プログラム(A-STEP)のプロジェクトリーダー等もご担当されています。

● 下川先生のお立場についてご紹介ください

私は、2008年より「Circulation Journal(Circ J)」<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/circj>の編集長をしています、ヨーロッパ心臓病学会(ESC)、アメリカ心臓協会(AHA)の学会誌の副編集長も担当しており、世界の3極構造がよく



Circ J 編集長、
東北大学循環器内科学教授
下川宏明 教授

分かる立場にいます。ESC や AHA では編集長への学会からのバックアップが強力ですが、日本では編集長が相当頑張らなければならない、かなり大変です。その中で8年間頑張ってきました。

● 貴学会誌の特徴と国際発信へ向けた活動、取り組みについてお願いします

2015年のインパクトファクター(IF)が速報値で既に4を超えました。これは、掲載論文の質の向上に加えて、英文HPの充実、国際編集会議等での活動、全世界の研究者(約6,000名)へのメルマガ発信、国際学会でのブース展示等の活動の成果です。投稿数も毎月110件以上あります。全面カラー化しており、外国人を含む49名のエディターを有し、投稿からファーストデシジョンまでは平均10日です。これは世界最速です。この他、海外著名人による総説の掲載もIF向上に寄与しています。勿論、J-STAGEでの無料公開も大きく貢献しています。今やアジア・太平洋地域を代表する国際的なフラッグシップジャーナルとしての地位を築いています。

● J-STAGE について(良い点、改善すべき点、期待すること等)

編集長就任時から利用していますが、無料で利用できるポリシー等の縛りがなく自由にできることが一番有難いと思います。海外の大手出版社からの勧誘も度々ありますが、JSTのような日本の機関を学会としても応援したいと思います。期待する点は検索機能をもっとスムーズにして欲しい点と、論文をアクセプトしてからJ-STAGEに早期公開するまで今は30日ですが、もっと早く公開できればさらに良いと思います。一方、J-STAGEは広報が弱く、海外ではほとんど耳にしませんし、J-STAGEとして主体的にアピールしている姿が見えません。J-STAGEと学会双方向の交流、コミュニケーションの強化をもっと図ってほしいと思います。

● 日本の学協会を巡る情勢、課題・問題点、オープンアクセスについて

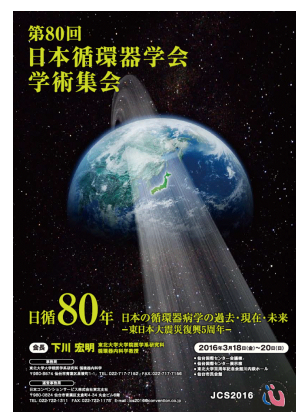
Circ Jは編集から発行まで全てを内部で手作りです。校正も私が全て指示しています。海外出版社に委ねれば編集長としては楽にはなりますが、論文ダウンロードにお金がかかることは問題です。公的資金を使った研究論文は全てオープンアクセスとすることは、当然のことだと思います。

● 今後の抱負、第80回日本循環器学会学術集会について

<http://www2.convention.co.jp/jcs2016/index.html>

本年3月に日本循環器学会学術集会を会長として仙台で開催します。第80回の記念大会であると共に東日本大震災から5年という節目の大会でもあります。毎年2万人近い参加者があり国内では最大級の学術集会です。また、さらなる国際化を目指したいと考えています。今後、日本やアジアでのエビデンスをCirc Jを通じて発信し、世界のリーディングジャーナルの一つとしてレベルアップを図っていきたいと思います。J-STAGEも、是非、頑張ってください。

● ありがとうございました。J-STAGEも頑張ってください。



第80回日本循環器学会学術集会

2015年度 J-STAGE 機能拡張について

J-STAGE では、閲覧者の皆様・利用学協会の皆様の利便性向上をめざし、今年度もシステムの機能改善・拡張を実施しました。

機能拡張項目や開発内容の詳細につきましては以下で公開しております説明資料をご覧ください。

https://www.jstage.jst.go.jp/pub/html/AY04S580_ja.html

来年度も引き続きシステムの機能改善・拡張を実施予定です。現在 J-STAGE では、データ登載時の入力チェックを厳密に行い、発行機関が J-STAGE のデータ登載時点で誤入力に気付けるような機能の開発を進めております。データ品質の向上により、J-STAGE から PubMed や CrossRef 等の外部サービスへ、よりスムーズにデータが連携されるようになります。入力チェックの具体的な内容については随時、J-STAGE 上での情報公開を行います。ご協力のほど、何卒よろしくお願いたします。

J-STAGE データ品質向上へのご協力のお願については、以下のページにてご案内しております。

<https://www.jstage.jst.go.jp/pub/html/pdf/AY04S560.files/150805hinshitsukojo01.pdf>

2015年度のおもな開発機能

リリース日	内容
2015.4.18	記事記述言語チェック機能の追加
	引用文献の言語判定機能の追加
	引用文献内の URL 活性化
	引用・被引用タブの日英表示統一
	JOI 表示を廃止
	FAQ リンクの追加
	DOI 重複チェック機能の追加
2015.10.16	DOI 記載引用文献へのリンク付与率向上
2015.11.29	登載対象コンテンツの拡大
	Web 登載機能
	著者識別子 (ORCID iD、e-Rad 研究者番号)、ファンド情報、会議情報等の項目への対応
	パスワード変更・再発行・ロック機能の追加

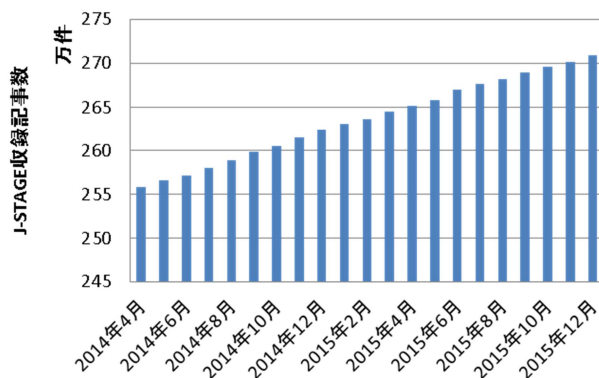
J-STAGE 収録記事数が270万記事を突破

J-STAGE の公開誌数が 1900 誌、収録記事数が 270 万件を突破しました。対象コンテンツの拡大による登載誌数の増加を受け、来年度は新規に 300 誌の登載を予定しております。今後とも、J-STAGE は幅広い日本の学術情報の電子化・国内外への発信を推進して参ります。

<2016年2月24日現在の J-STAGE 参加状況>

公開誌数: 1,906 誌 (内、ジャーナル: 1,779 誌)

全収録記事数: 2,720,819 記事



J-STAGE 収録記事数

編集後記

J-STAGE スタッフからひとこと

- ♪ 3月には J-STAGE セミナーも開催されます。学協会・閲覧者の皆様に役立つ情報を発信していけるよう、励んでゆきたいと思っております (at)
- ♪ コンテンツ拡大、評価版の開発と J-STAGE は皆様の声を聴きながら常に前に進みます。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。(杉)
- ♪ 3年ぶりに復帰しました。J-STAGE ニュースの「学会訪問シリーズ」も数年ぶりに掲載しました。今後、多くの学協会様との交流を図ってまいります(み)

J-STAGE ニュース No. 38 2016年3月1日

編集: 国立研究開発法人 科学技術振興機構 (JST)
知識基盤情報部 研究成果情報グループ

発行人 知識基盤情報部長 小賀坂 康志
〒102-8666 東京都千代田区四番町 5-3 サイエンスプラザ
E-MAIL contact@jstage.jst.go.jp

J-STAGE www.jstage.jst.go.jp

J-STAGE および J-STAGE ニュースに関するご意見・ご質問をお待ちしております。
JST 知識基盤情報部 研究成果情報グループ (contact@jstage.jst.go.jp)

Follow J-STAGE
on Twitter @jstage_ej